

予測不能だからこそ、多くのトライを

代表取締役社長 今村 善信氏



大電産業

福井市春山1-6-15

「コロナ禍に加え、資材の急騰、半導体不足、東南アジアでのロックダウン、部品や原材料の不足も重なり、仕入先からの商品供給がままならなかった」と昨年を振り返る。「幸い、設備投資は旺盛なままだが、供給状況の好転の兆しは情報を精査しても見当たらず、予測不能な状況が続く」と今年も舵取りの難しい状況は続く見通しだ。

「電化」「デジタル化」は国の成長戦略のキーワードであり、どの会社も避けて通れない課題だ。「どちらもわが社の事業領域の中心であり、お客さまや社会に貢献できることはさらに多くなる」。物流を含めた商社機能、エンジニアリング機能、いずれにおいても電気・通信・制御分野の課題をワンストップで解決できるニーズは高まっている。「お客さまの様々な悩みに対応できる強みを、さらに磨いていきたい」と自信を見せる。

昨年、新たに産業用ロボット、IoT関連設備のデモ機を準備。「お客さまに生産設備の自動化や稼働状況の見える化などを実機で見ることで、メリットを体感していただきたい」と話す。

社長就任から4年。取り組み続けてきた社内文化の刷新は、徐々に効果を見せ始めている。「一人ひとりの意見を聞くことができるようになり、業務改善のスピードも上がってきている」。

予測不能な状況だが、「常にチューンアップし、新たな変化に対応できるように備えていく。社員には、小さなことでもいいので、多くのトライをして欲しい」と話す。トライした数だけ経験が蓄積される。「この一年も、将来の飛躍につながる経験を積んでいきたい」と先を見据える。